

## 構想策定の背景

### 1 全線開通の課題と構想策定の目的

中部横断自動車道の全線開通が沿線地域に与えるプラス効果を最大限に活用するとともに、マイナス効果をできるだけ減らしていくことが、地域の活性化のためには不可欠

【プラス効果】

東京圏～中京圏、静岡、長野、新潟とのアクセス環境向上による、交流（観光）、物流面での活性化

【マイナス効果】

ストロー現象や国道52号の交通量減少による、既存消費の減少

こうしたことから、沿線地域のエリア別の将来像を明らかにして、その地域特性を踏まえながら、地域活性化に必要な取り組みを、地域自らが主体的にかつ計画的に推進するため、それらの指針となる構想を策定する。

### 《10年後》 中部横断自動車道の全線開通

(課題)

プラス

マイナス

#### 交流（観光）・物流

- ・ 東京圏～中京圏、静岡、長野、新潟とのアクセス向上

#### 既存消費の減少

- ・ ストロー現象
- ・ 国道52号の交通量減少

(目的)

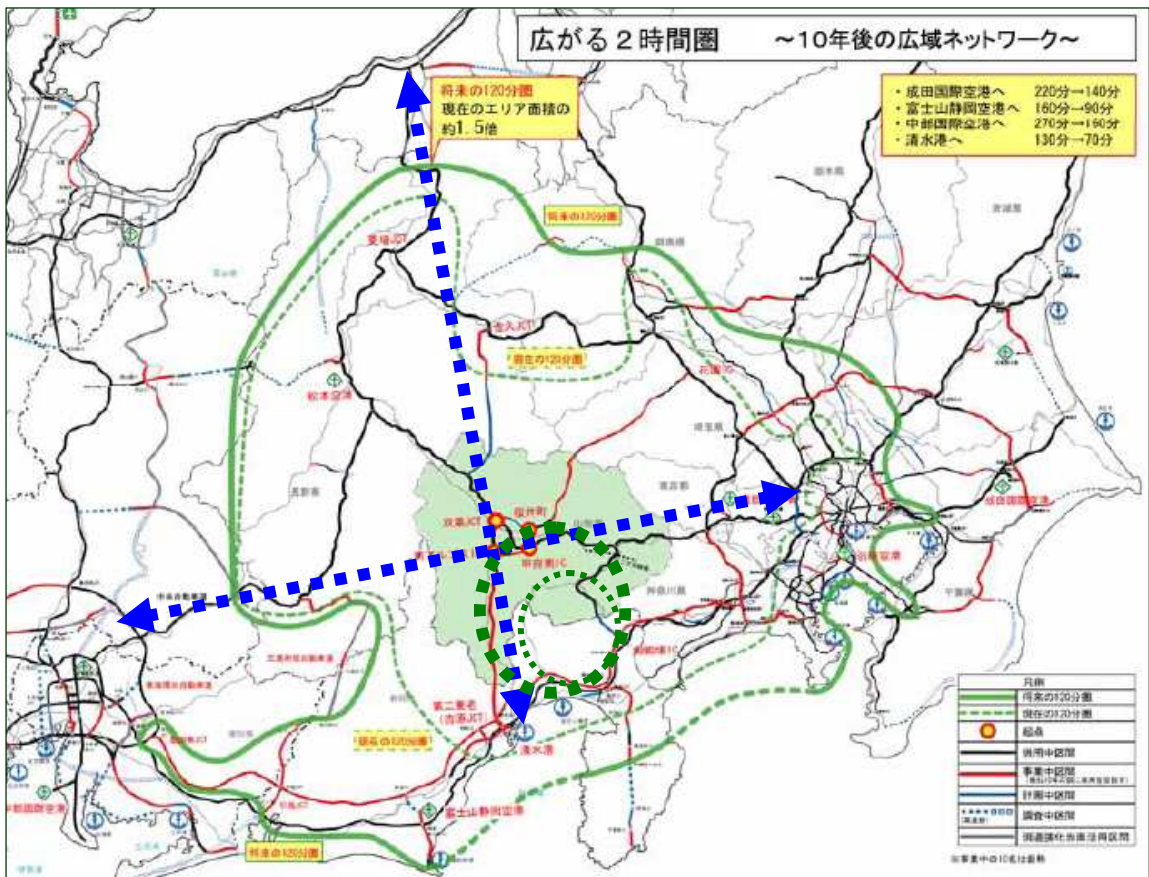
構想：計画的な取り組みの指針

## 2 中部横断道沿線地域の立地条件

中部横断自動車道は、静岡県静岡市を起点に山梨県甲斐市を経由して長野県佐久市に至る延長約 132 Km の高速自動車国道

富士山静岡空港の開港、東富士五湖道路の延長等により、富士山を中心にした魅力ある広域観光地を形成していく新たな観光ネットワークを構成するエリアとしての発展が望まれる。

中部横断自動車道の完成により、本県の立地条件としての強みである中央自動車道で結ぶ東京圏～中京圏の結節点機能に加え、日本の発展を支えてきた環太平洋の生産拠点と、アジアの経済発展に伴い重要度が増している環日本海物流とのクロスポイントとなる。(清水港の拡張、新潟港・直江津港の取扱貨物の増大)



東京圏～中京圏、環太平洋～環日本海ラインのクロスポイント ■■■■■■

環富士山交通ネットワークの大環状としての西部地域 ■■■■■■

### 3 道路整備の現状と予定

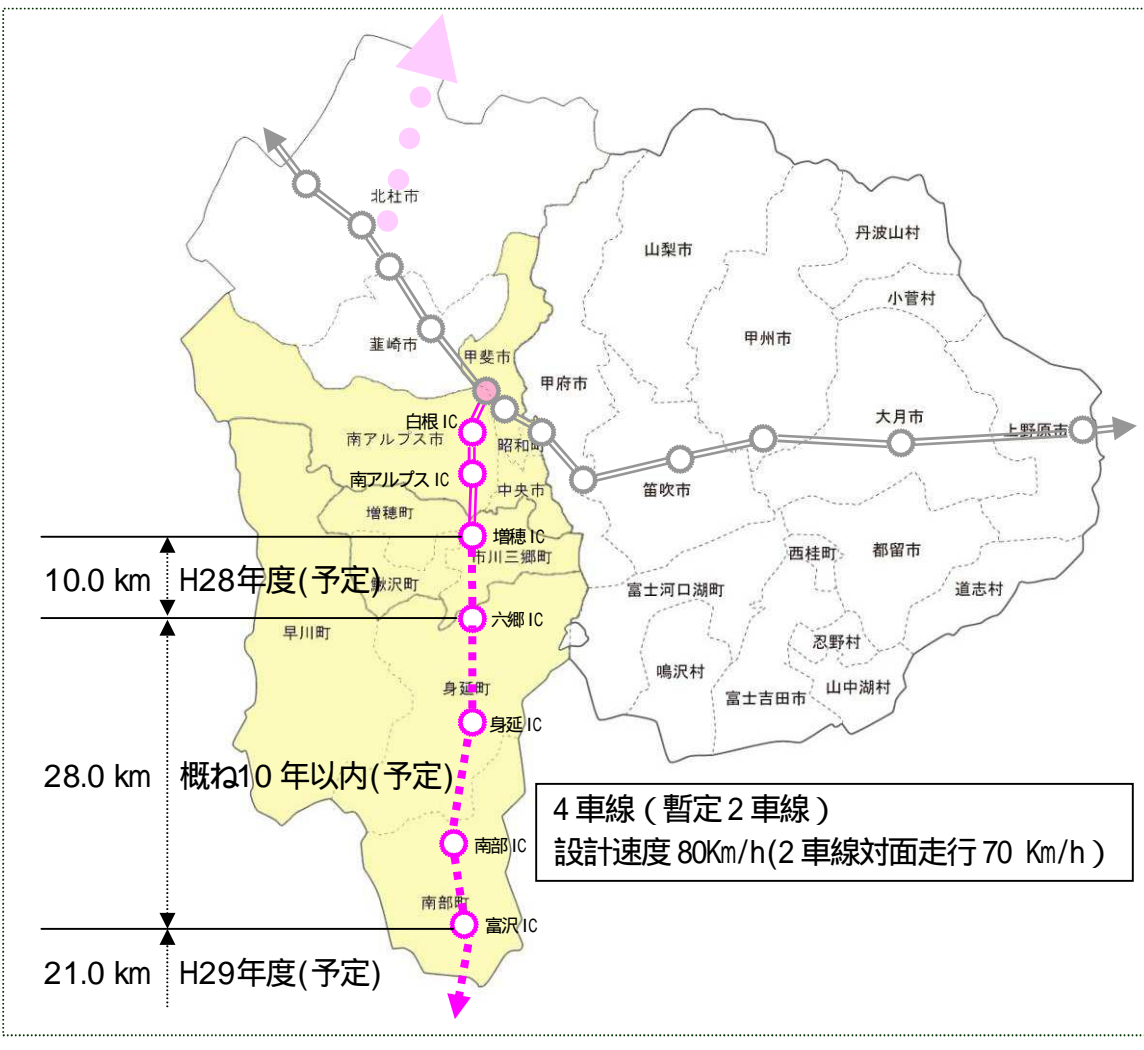
中部横断自動車道（双葉 JCT～吉原 JCT）は、約 75 km  
 現在、双葉 JCT～増穂 IC の 16km が供用開始されている。  
 概ね 10 年以内の全線開通が予定されている。

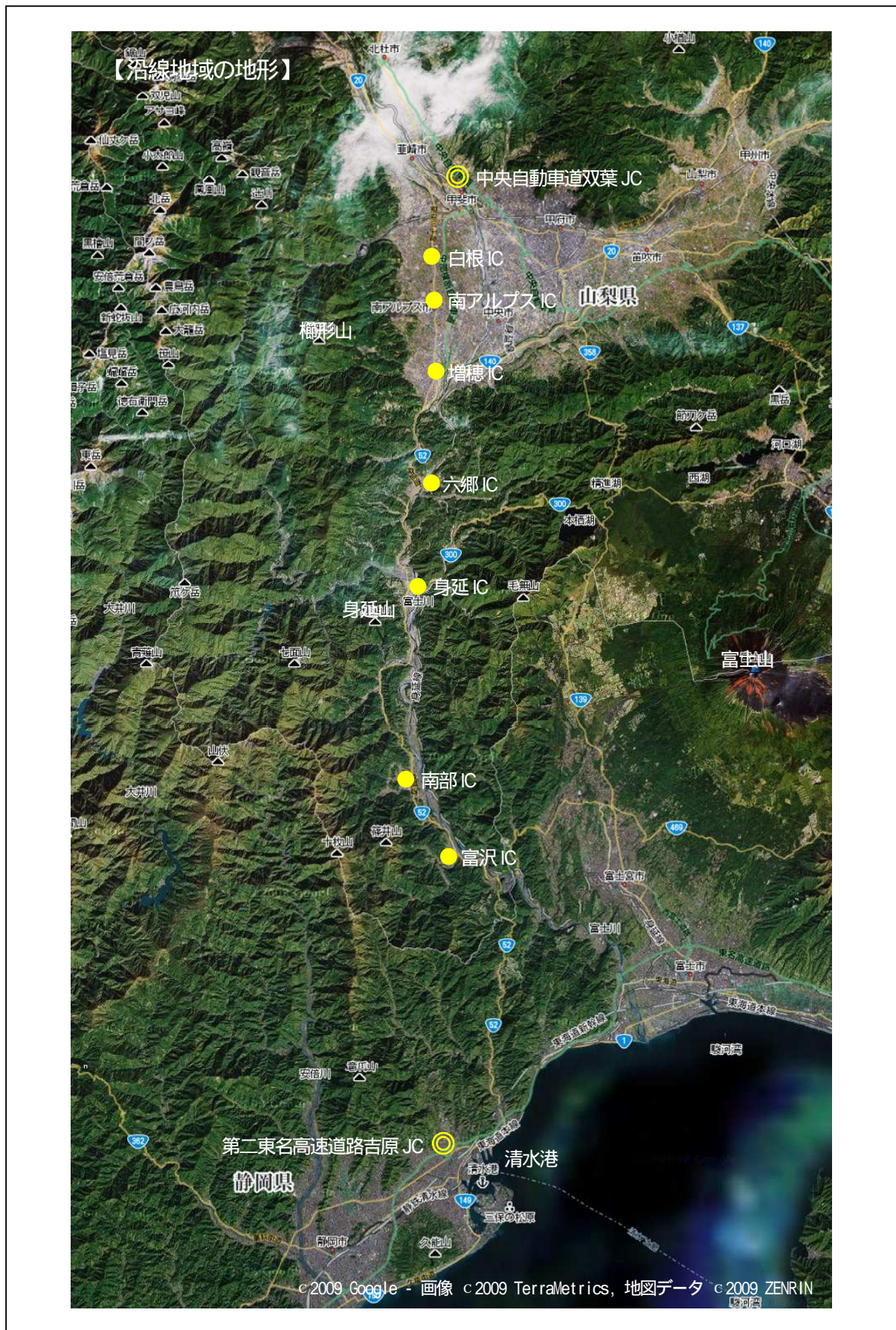
#### 【整備済み】

双葉 JCT～白根 IC	H14. 3.30 (開通)	6.8 km
白根 IC～南アルプス IC	H16. 3.20 (開通)	3.0 km
南アルプス IC～増穂 IC	H18.12.16 (開通)	6.2 km

#### 【整備予定】

増穂 IC～六郷 IC	H28 年度 (予定)	10.0 km	有料道路方式
六郷 IC～身延 IC ～南部 IC～富沢 IC	概ね 10 年以内完成	28.0 km	新直轄方式(無料)



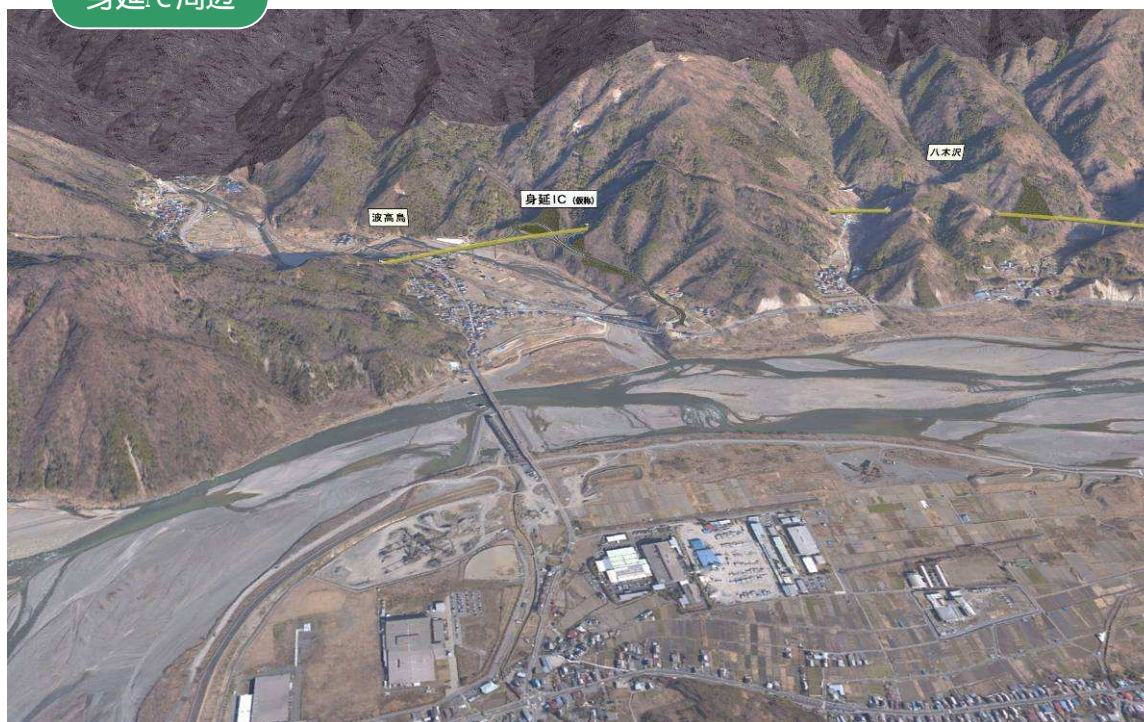


【インターチェンジ周辺の状況】

六郷IC周辺



身延IC周辺



南部IC周辺



富沢IC周辺



## 4 構想のエリア設定

沿線エリアの人口は約26万人で、山梨県全体の約3割

沿線市町のこれまでの20年間の人口、産業、土地利用等のデータを整理した結果、地域の歴史、性格が異なる次の3つのエリアに分類される。

【北部エリア】 南アルプス市、甲斐市、中央市、昭和町

- ・ 県都甲府市の都市機能(住居、商業、工業団地等)拡大の受け皿として、近年、発展してきた地域

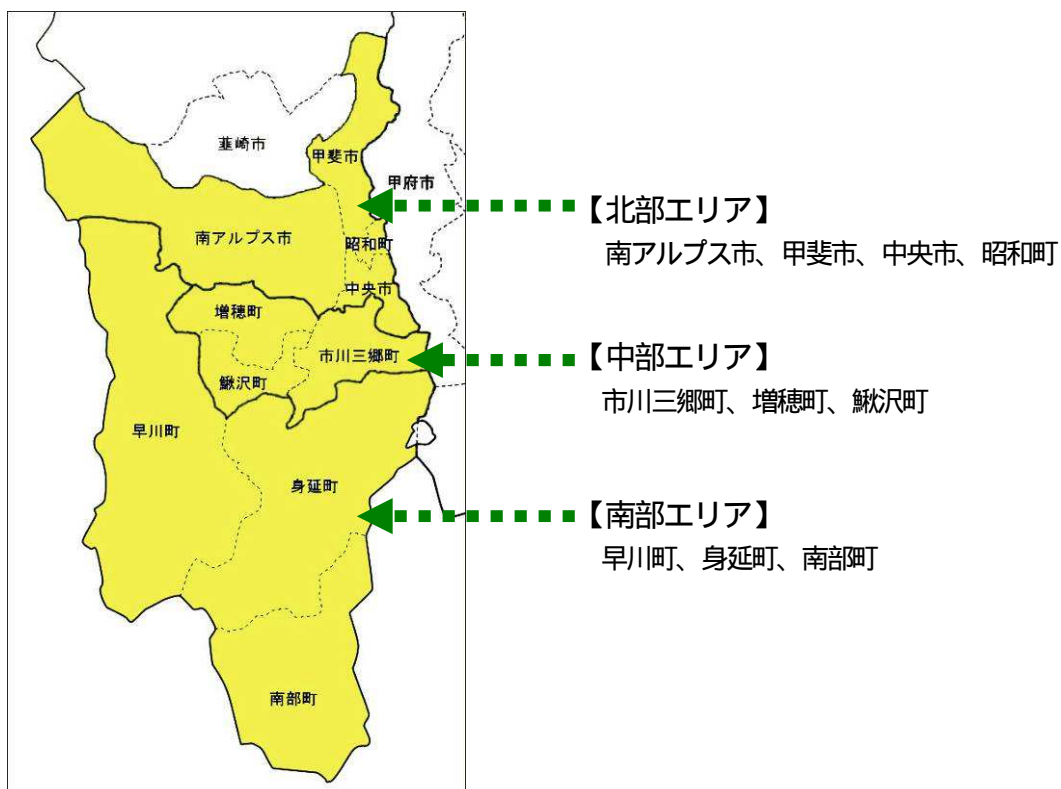
【中部エリア】 市川三郷町、増穂町、鯉沢町

- ・ 甲府盆地と河内地域の境界及び富士川(釜無川)と笛吹川の合流点に位置し、古くは富士川舟運の中心として栄えていた地域

【南部エリア】 早川町、身延町、南部町

- ・ 河内地域と言われ、富士川に流れ込む河川沿いに集落が広がる山村地域

このため、この3つのエリア別に将来データの推計を行うとともに、エリア別に活性化策を検討して構想の策定を行う。



この章の現状分析・将来推計は、(財)山梨総合研究所で実施。

## 地域の現状と将来像

### 1 地域特性

3エリアの人口、産業、歴史などの特性は次のとおりである。

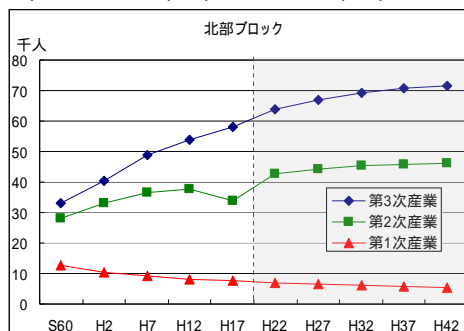
【北部エリア】南アルプス市(72千人)、甲斐市(74)、中央市(32)、昭和町(17)

人口：195千人  
(県都スプロール化で人口増加地域)

産業：釜無川左岸に工業・流通団地が集積。北部南部に畜産、スイートコーン等の農業。南アルプス市は果樹農業と観光農園、山岳観光

就業人口：一次：- 二次：+ 三次：+

歴史：山岳信仰 信玄堤 木綿 シルク 小笠原流



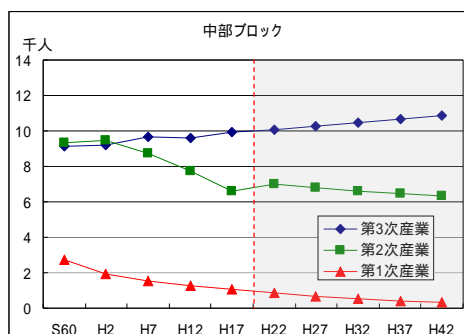
【中部エリア】市川三郷町(18千人)、増穂町(13)、鯉沢町(4)

人口：35千人  
(盆地南端に位置し人口減少地域)

産業：北部に工業団地と農業(スイートコーン、ゆず) 日本酒。中南部に和紙、印章、硯等の伝統工芸

就業人口：一次：- 二次：- 三次：+

歴史：富士川舟運の拠点として明治時代までは山梨の物流の中心  
身延山信仰の入口 落語・北斎「鯉沢」 御用紙漉き衆



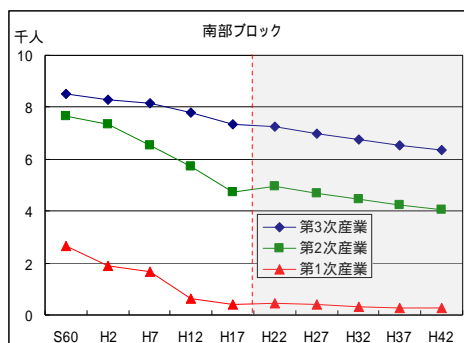
【南部エリア】早川町(1.5千人)、身延町(16)、南部町(10)

人口：28千人  
(富士川沿いに位置し人口急減地域)

産業：身延山、山岳信仰、温泉を中心にした観光。北部に和紙、硯等の伝統工芸。南部に県最大の木材、お茶

就業人口：一次：- 二次：- 三次：-

歴史：身延山 七面山 信玄の隠し湯(下部、西山、奈良田)と金山  
南部氏発祥の地 井伏鱒二「波高島」「川釣り」やまめ床 内船歌舞伎。





## 2 地域の現状と将来推計（人口、産業、土地利用）

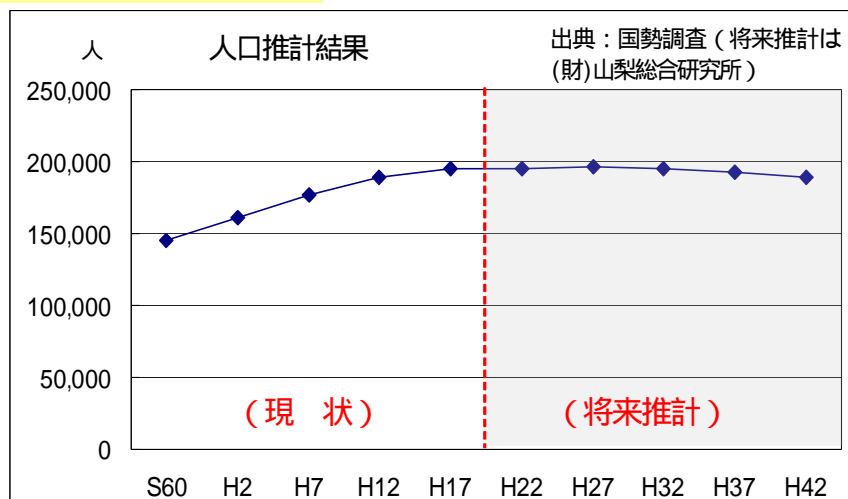
### （1）北部エリア 南アルプス市、甲斐市、中央市、昭和町

増えてきた人口は横ばいへ移行し、生産年齢人口（15～64歳）は微減し、65歳以上は増加する。

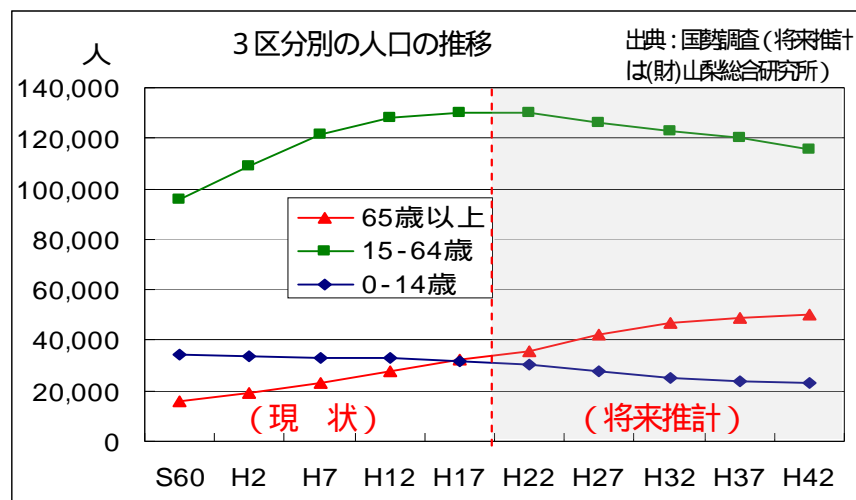
農業粗生産額は減少傾向が続く一方で、製品出荷額等、商品販売額は増加傾向が続く。観光客は微増にとどまる。

耕地面積は減少傾向が続く一方で、宅地・工業商業地面積は微増傾向が続く。

#### 増えてきた人口は横ばいへ

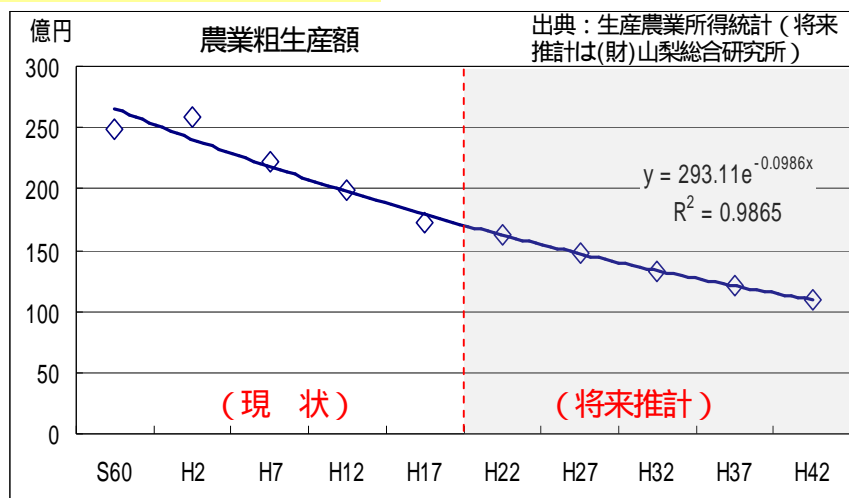


#### 労働力人口（15～64歳）微減へ、65歳以上は増

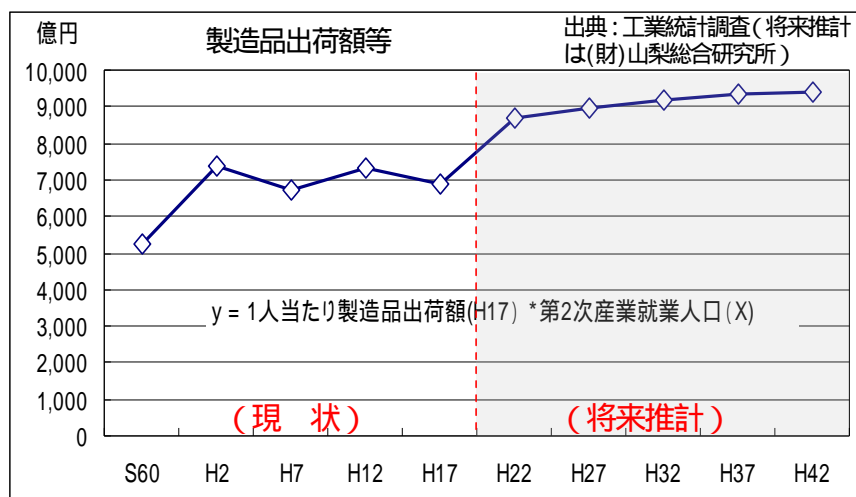


農業粗生産額は減少傾向が続く

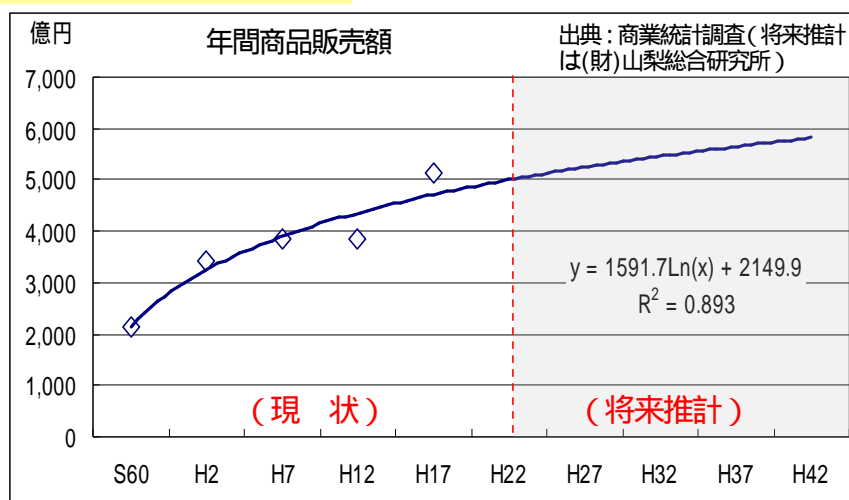
【北部エリア】



製品出荷額等は増加傾向が続く

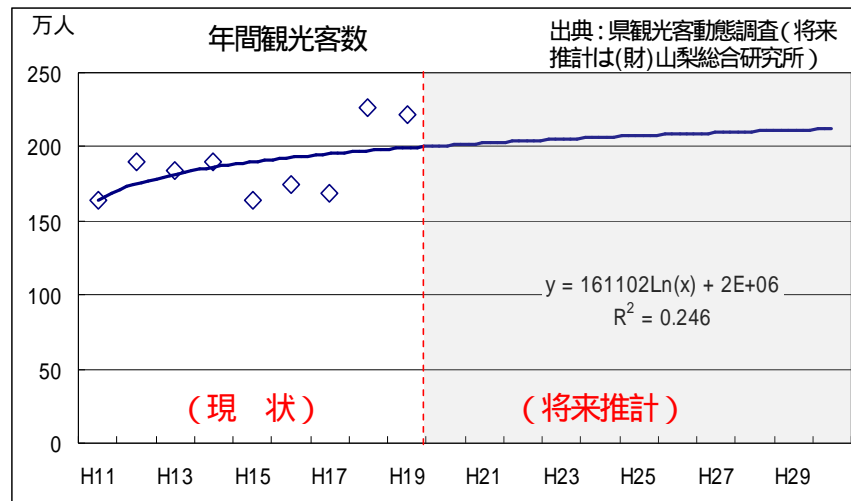


商品販売額は増加傾向が続く

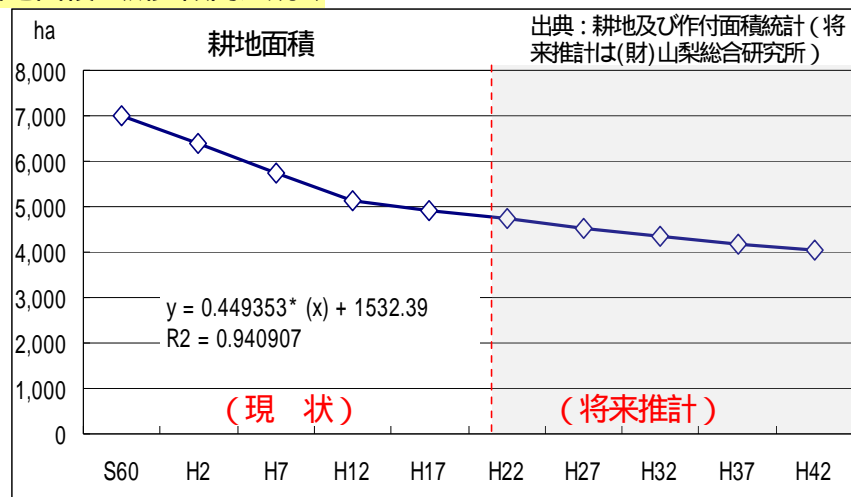


観光客は微増にとどまる

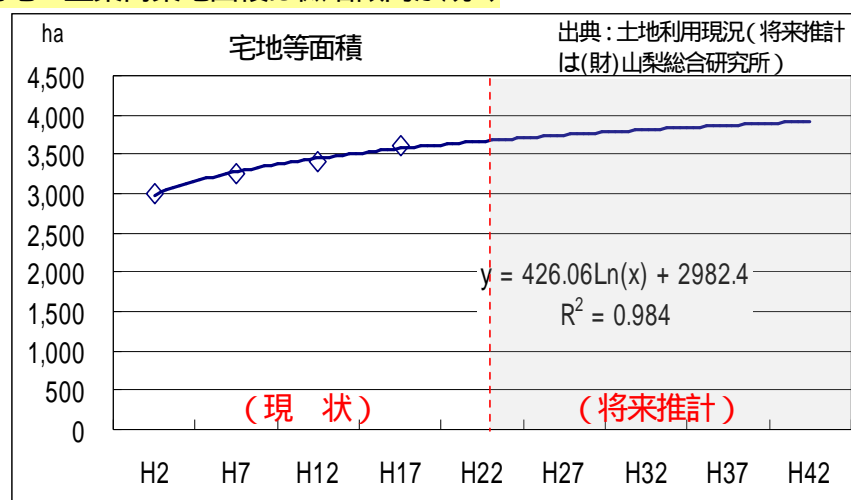
【北部エリア】



耕地面積は減少傾向が続く



宅地・工業商業地面積は微増傾向が続く



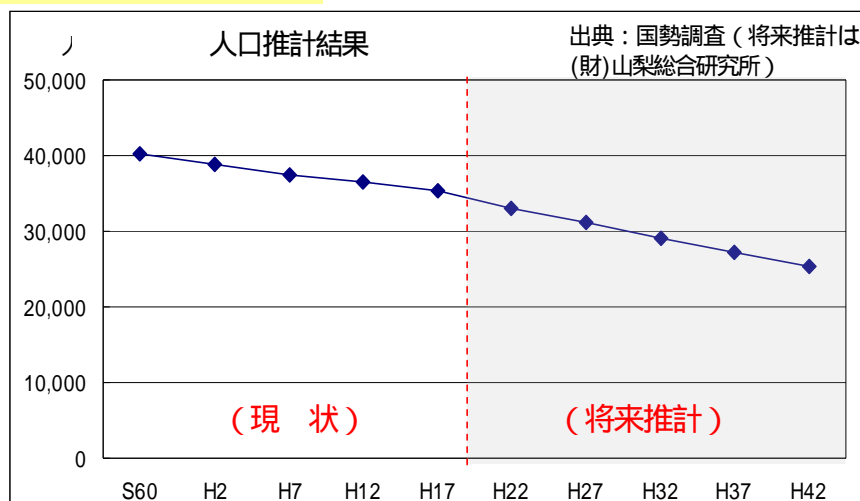
(2) 中部エリア 市川三郷町、増穂町、鯉沢町

人口は微減から減少傾向へと進み、増加してきた65歳以上人口も微減へと転換する。

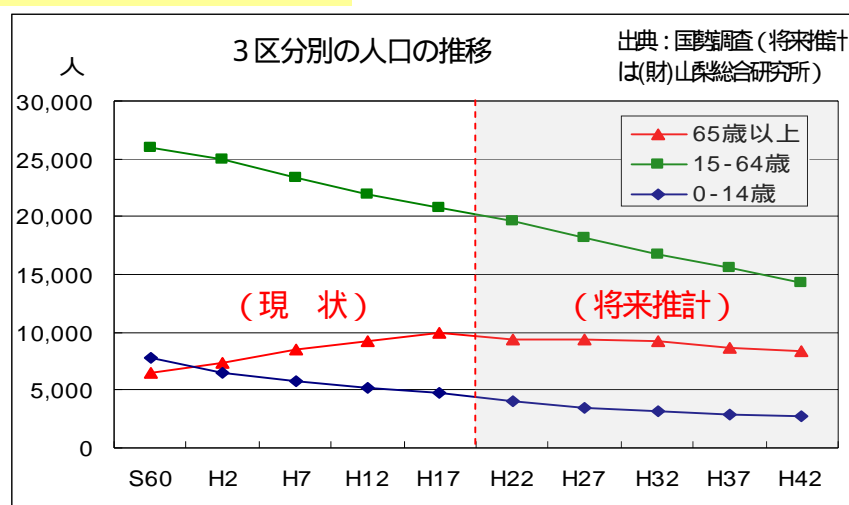
製品出荷額等は横ばい傾向であるが、農業粗生産額、商品販売額は減少傾向が続く。観光客は微増傾向が続く。

耕地面積は減少傾向が続く一方で、宅地・工業商業地面積は微増傾向が続く。

人口は微減から減少傾向へ

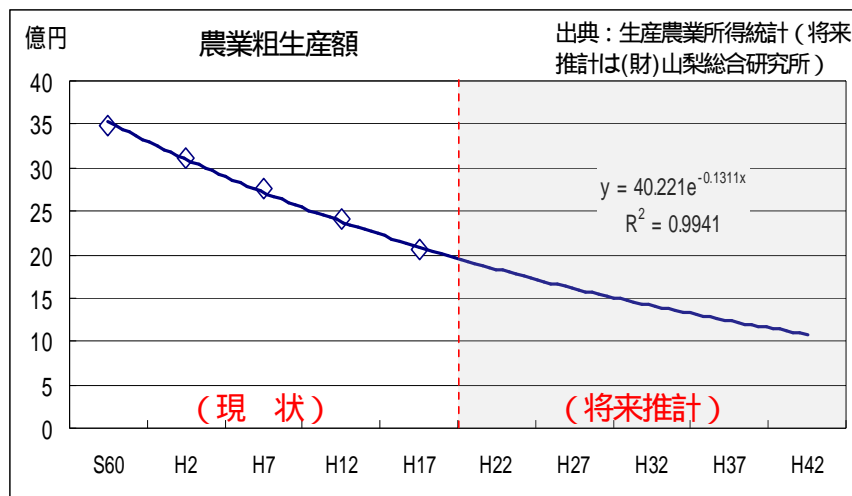


65歳以上人口も微減へ転換

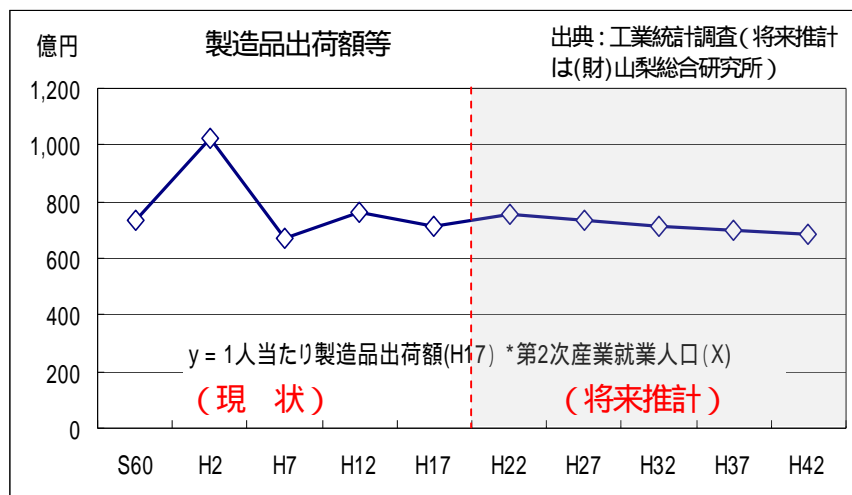


農業粗生産額は減少傾向が続く

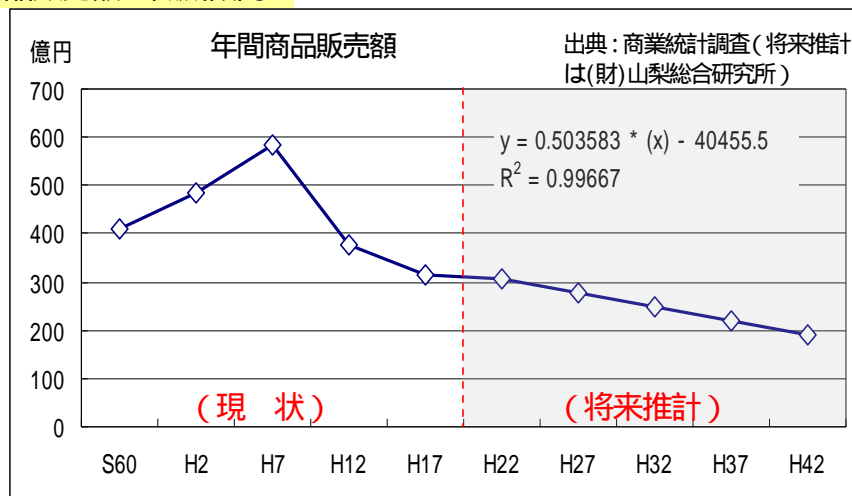
【中部エリア】



製品出荷額等は横ばい

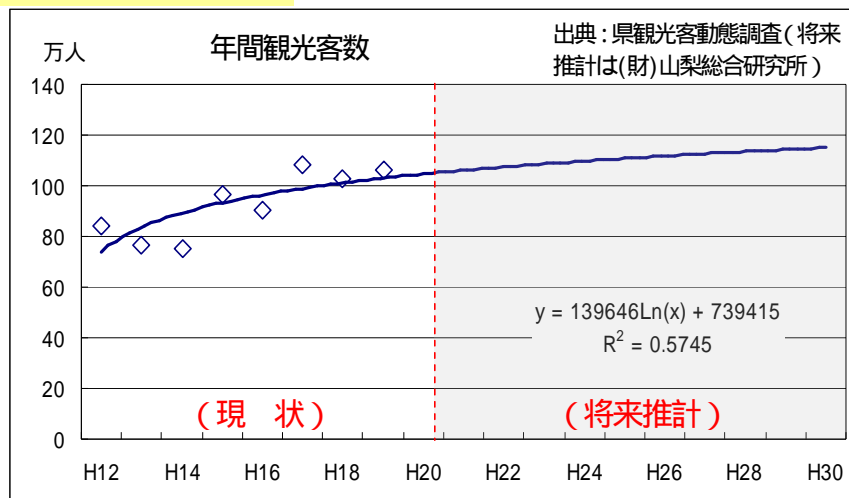


商品販売額は微減傾向へ

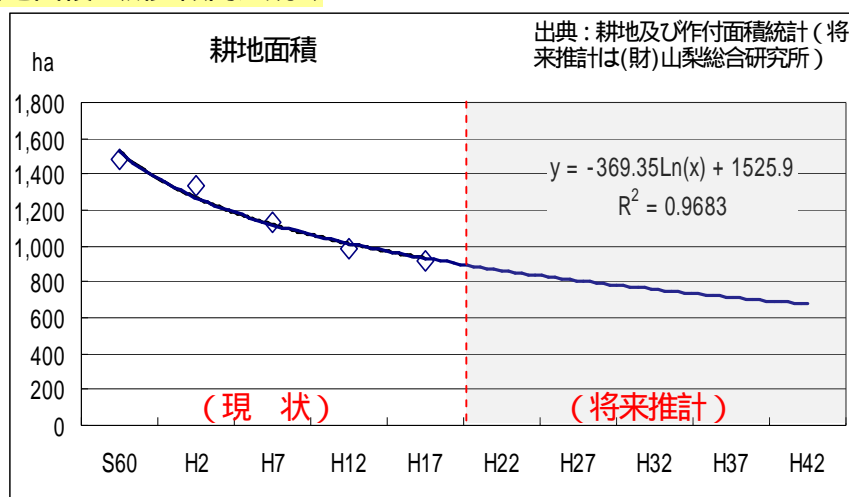


【中部エリア】

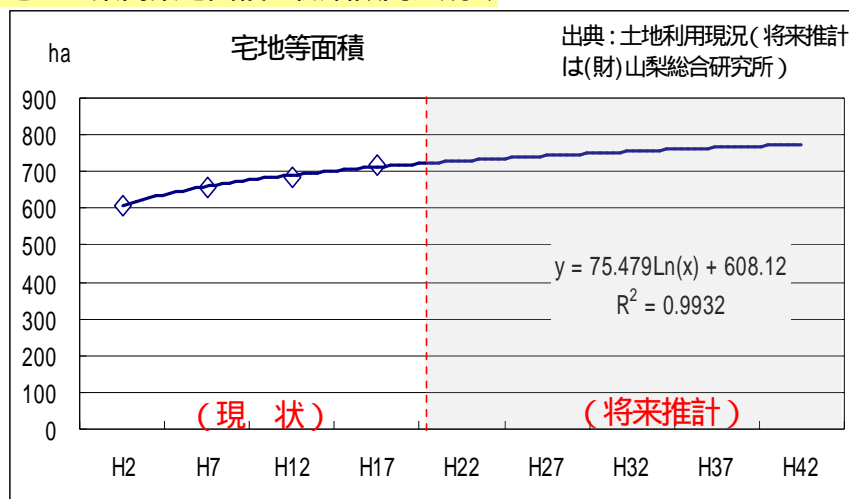
観光客は微増傾向が続く



耕地面積は減少傾向が続く



宅地・工業商業地面積は微増傾向が続く



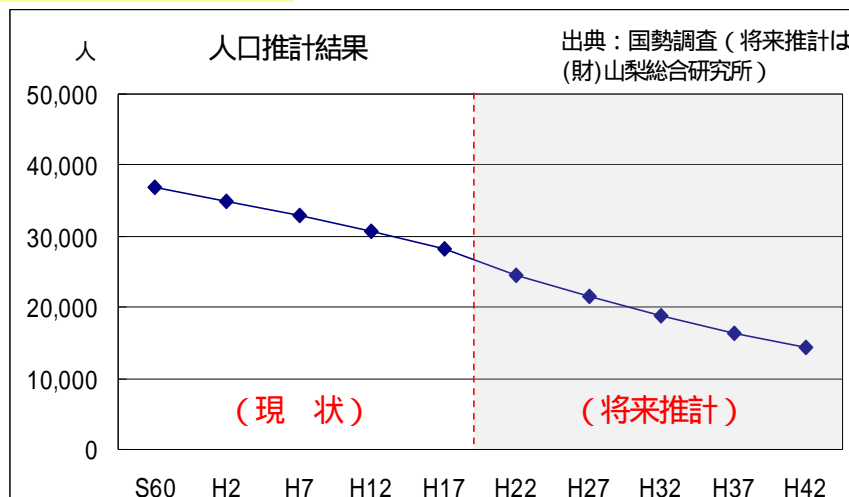
(3) 南部エリア 早川町、身延町、南部町

人口は減少傾向が強まり、20年後には生産年齢人口(15~64歳)と65歳人口が並ぶとともに、既に減少傾向だった65歳以上人口も減少の傾向を強める。

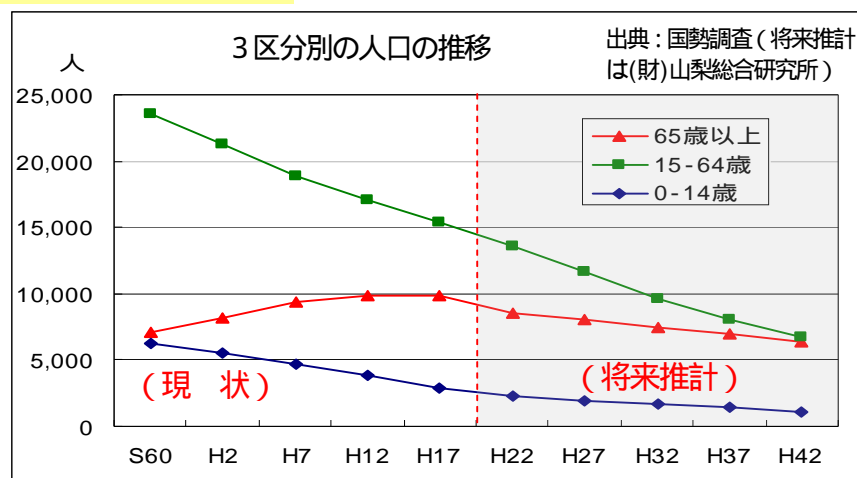
製品出荷額等は横ばいから微減へ、農業粗生産額、商品販売額は減少傾向が続く。観光客は微減傾向が続く。

耕地面積は減少傾向が続く一方で、宅地・工業商業地面積は微増傾向が続く。

人口は減少傾向が強まる

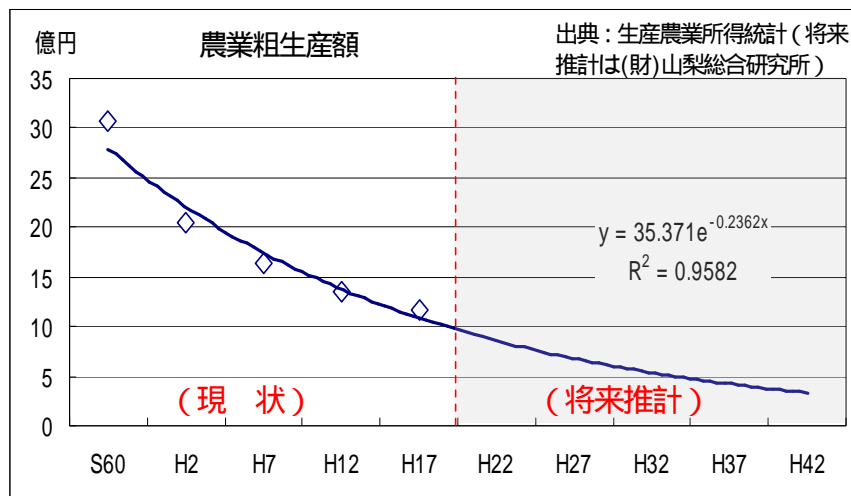


65歳以上人口も減少へ

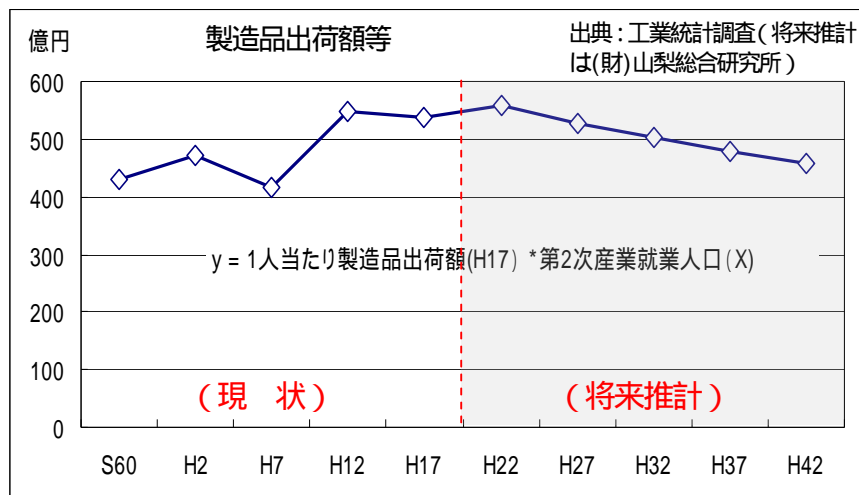


農業粗生産額は減少傾向が続く

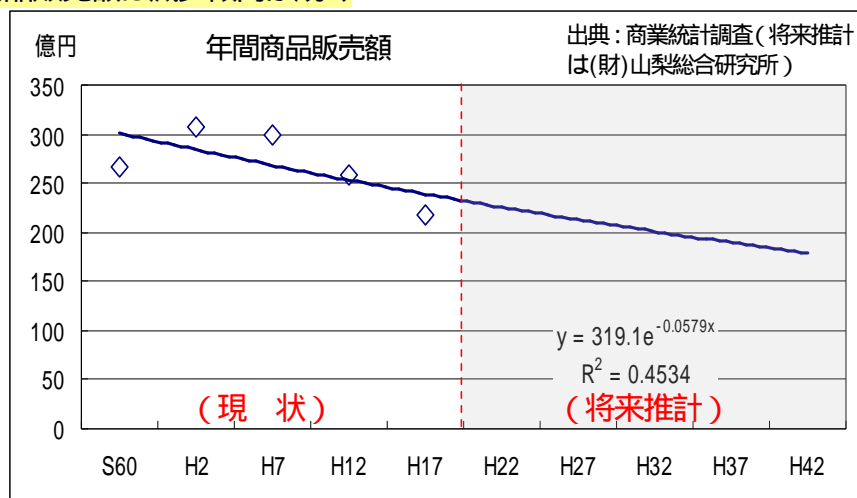
【南部エリア】



製品出荷額等は横ばいから微減へ



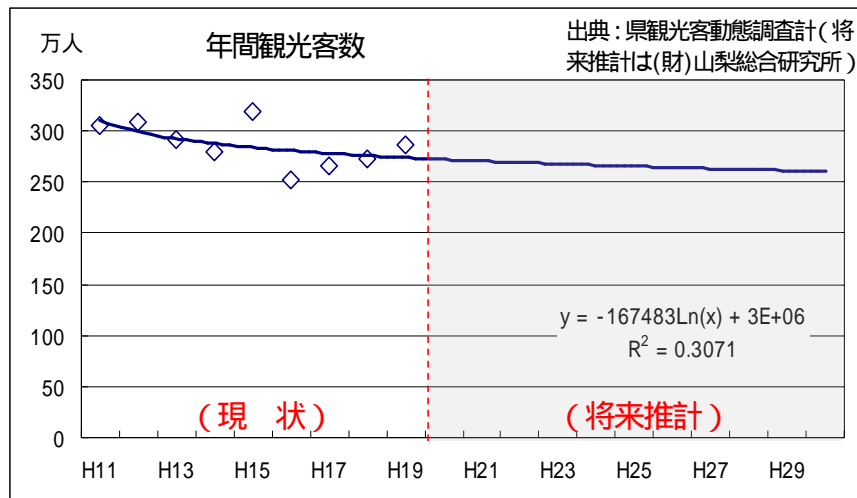
商品販売額は減少傾向が続く



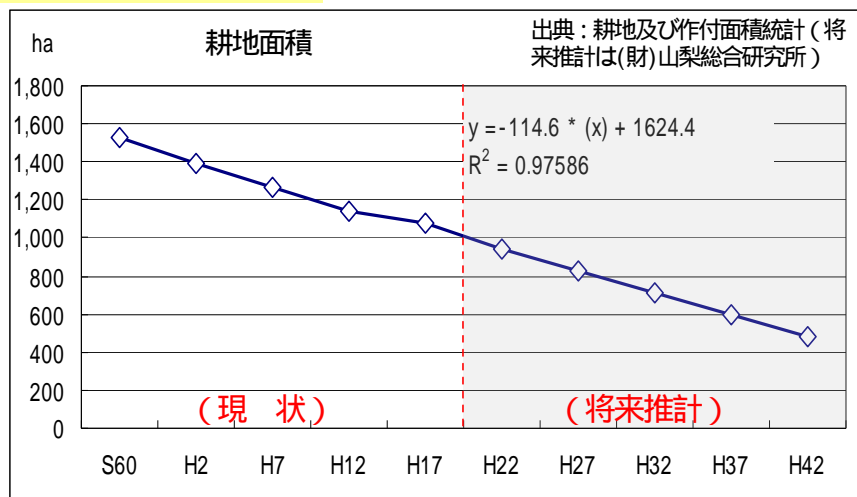


観光客は微減傾向へ

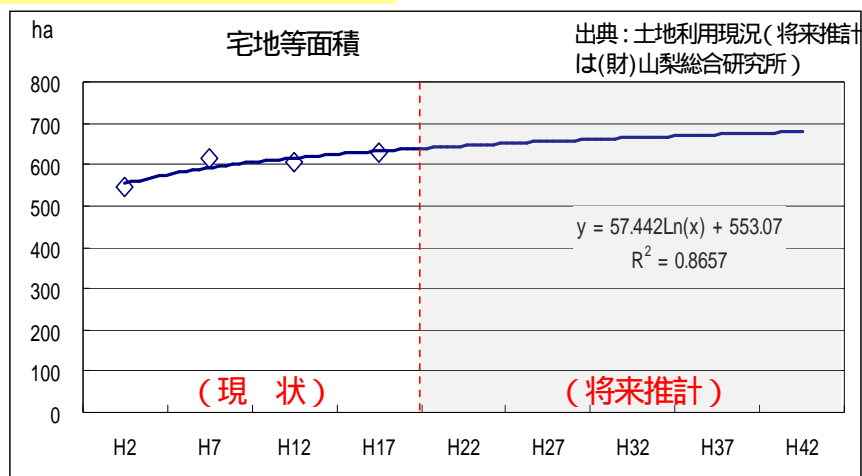
【南部エリア】



耕地面積は減少傾向が続く



宅地・工業商業地面積は微増へ



### 3 購買行動にみる地域の関連性

■ =30%以上    ■ =20%以上30%未満    ■ =10%以上20%未満

3エリアの関連性について購買行動を通して分析すると、中央市、昭和町に集中している状況となっている。

- 昭和61年：ほとんどのエリアで地元消費が中心
- 平成10年：地元消費が崩れ、中央市（田富町）に集中
- 平成19年：中央市、昭和町に集中

南部町においては、静岡県での購買のウェイトが高まってきている。

#### 昭和61年：ほとんどのエリアで地元消費が中心

購買行動図(S61)

→購買地 ↓居住地	甲斐市	竜王町	敷島町	双葉町	南アルプス市	檜形町	白根町	若草町	甲西町	八田村	芦安村	中央市	玉穂町	田富町	豊富村	昭和町	市川三郷町	市川大門町	六郷町	三珠町	増穂町	諏沢町	身延町	身延町	下部町	中富町	早川町	南郷町	南郷町	富沢町
甲斐市	40.9																													
竜王町	43.7																													
敷島町	46.5																													
双葉町	11.1	21.5																												
南アルプス市				54.9																										
檜形町					69.5	11.3																								
白根町						48.2																								
若草町					35.8		22.7					14.9																		
甲西町					32.3			36.3																						
八田村						17.8			27.6																					
芦安村						35.2																								
中央市												47.0																		
玉穂町												16.5	24.3	18.0																
田富町													38.8																	
豊富村													17.4	23.9																
昭和町																43.8														
市川三郷町																	58.8													
市川大門町																	11.2	58.2												
六郷町																		52.2												
三珠町													17.8				38.8	18.4												
増穂町																			56.3											
諏沢町																			21.8	45.7										
身延町																					45.4									
身延町																						58.3								
下部町																							39.6							
中富町																								11.6	16.0	38.1				
早川町																									13.5		23.9	13.5		
南郷町																												43.1		
南郷町																													50.5	
富沢町																														35.3

■ =30%以上    ■ =20%以上30%未満    ■ =10%以上20%未満

平成10年：地元消費が崩れ、中央市（田富町）に集中

購買行動図(H10)

→購買地 ↓居住地	甲斐市	滝王町	敷島町	双葉町	南アルプス市	檜形町	白根町	若草町	甲西町	八田村	声安村	中央市	玉穂町	田富町	豊富村	昭和町	市川三郷町	市川大門町	六郷町	三珠町	増穂町	諏沢町	身延町	身延町	下部町	中富町	早川町	南都町	南都町	富沢町		
甲斐市	34.0																															
滝王町	38.3	3.1				0.7	0.3	0.1					0.2	10.0		18.1																
敷島町	7.9	27.9				0.1	0.2							1.4		8.2																
双葉町	7.3	15.5	3.9			0.1	0.7							1.9		4.5																
南アルプス市					51.8																											
檜形町	4.4	0.1			48.1	11.5	0.4	3.0	0.1			0.1	10.9			3.7		0.1						0.3								
白根町	7.2	0.4			21.4	28.8	0.2	0.5	2.1			0.2	10.0			4.4								0.1								
若草町	3.8	0.1			25.7	2.5	8.5	4.1				0.3	33.8			7.5		0.8						0.4								
甲西町	2.8	0.1			28.2	2.8	0.6	23.8				0.4	18.4			5.0		1.2					3.2	0.1								
八田村	15.0	1.2			10.8	15.3	0.3	0.1	8.8			0.1	10.5			7.4							0.2	0.1								
声安村	11.1	2.1			27.5	25.9			7.4	0.5			2.1																			
中央市												38.0																				
玉穂町	1.2					0.3	0.1	0.3					28.7	27.1		13.9		0.3														
田富町	2.1					1.2	0.1	0.5	0.2				9.3	30.2		15.6		0.3				0.5										
豊富村													21.7	26.8	10.2	5.1		3.3														
昭和町	5.0	0.1						0.1	0.1				10.9	20.7		40.7																
市川三郷町																	27.2															
市川大門町	0.4					1.8	0.1					2.2	28.7		7.4		30.6	0.4				3.7	0.4		0.1							
六郷町	0.3					3.8	0.1					0.5	24.0		6.9		9.9	19.9	0.2		13.4	1.7		0.1	0.1							
三珠町	0.6					0.2						8.4	18.1		8.7		18.4	0.1	1.1	1.2	0.3				0.1	0.3						
増穂町	0.9					13.3	1.2					0.7	19.1		3.5		1.7				17.5	2.5									0.1	
諏沢町	0.6					4.6	0.4					0.5	18.0		5.7		0.5	0.3	0.3		32.4	20.9										
身延町																							22.5									
身延町	0.4					4.3	0.4					0.1	20.3		4.3		0.9	0.1			6.6	1.2		33.3	0.1	0.5	0.1		2.4	0.4		
下部町	0.8					1.8	0.1					1.0	27.9		5.5		4.9	6.5	0.1		7.8	2.5		8.3	9.5	0.7	0.1					
中富町	1.4					2.1	0.5					0.1	24.3		6.9		1.3	7.4			19.7	2.7		7.5	0.3	6.6						
早川町	0.3					4.5						0.3	35.8		1.6						19.0	2.5		10.3		3.5	1.9		0.3			
南都町																																
南都町						0.3								1.8		0.3			0.1		0.6	0.1		7.3			0.1		32.1			
富沢町	0.1					0.1										0.4		0.1			0.1	0.1		7.2	0.1				9.4	22.1		

■ =30%以上    ■ =20%以上30%未満    ■ =10%以上20%未満

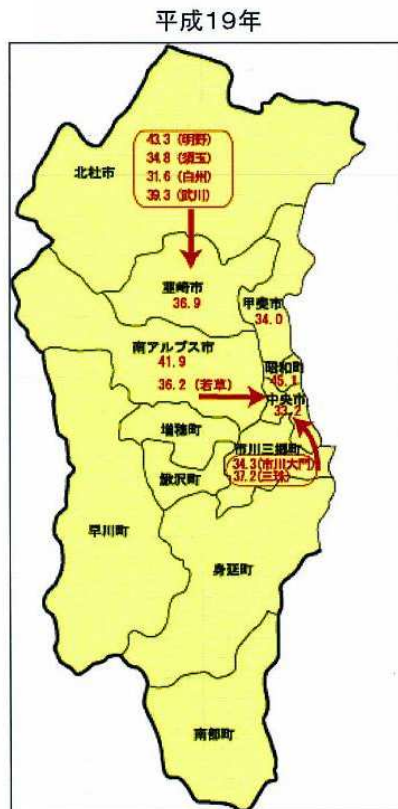
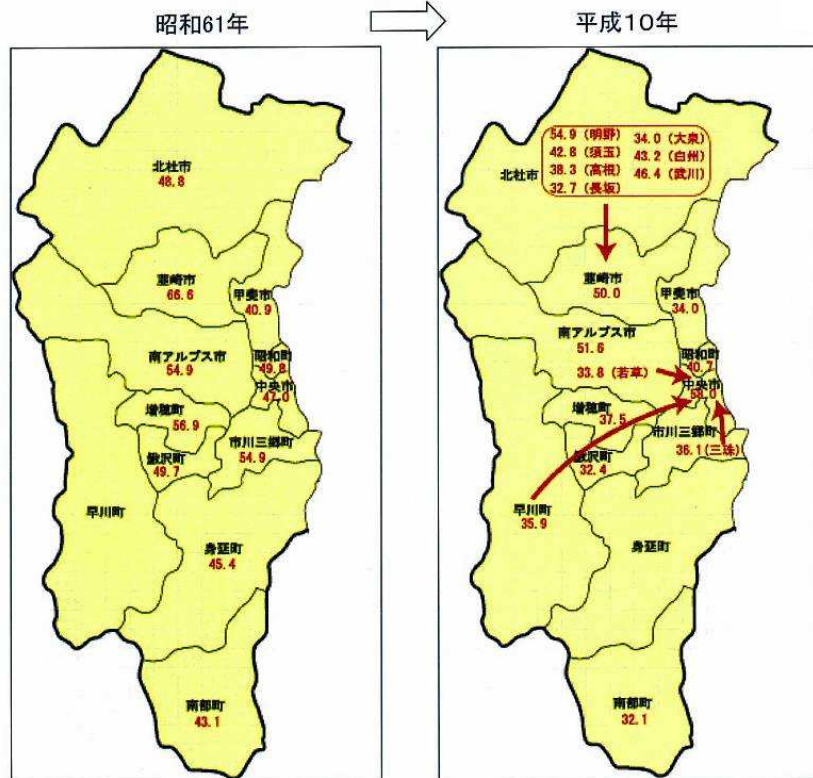
平成19年：中央市、昭和町に集中

購買行動図(H19)

→購買地 ↓居住地	甲斐市	竜王町	敷島町	双葉町	南アルプス市	檜形町	白根町	若草町	甲西町	八田村	芦安村	中央市	玉穂町	田富町	豊富村	昭和町	市川三郷町	市川大門町	六郷町	三珠町	増穂町	諏沢町	身延町	身延町	下部町	中富町	早川町	南都町	南部町	富沢町			
甲斐市	30.6																																
竜王町	25.9	4.1	2.4			1.9	2.7	0.1	0.2	0.1			0.2	18.4	27.0																		
敷島町	6.1	27.9	7.7			2.3	0.3	0.1		0.1			0.1	8.6	16.6																		
双葉町	7.2	11.2	23.8			1.4	1.8							11.5	14.9																		
南アルプス市					41.9																												
檜形町	4.0	0.1				29.4	7.9	0.5	3.7	0.1			0.1	24.6	9.5							0.2	0.1										
白根町	5.8	0.4	0.2			22.0	20.9	0.3	1.0	0.6	0.1		0.4	24.6	12.6							0.1											
若草町	3.1					26.0	3.7	3.5	9.7	0.2			0.2	36.2	9.1	0.1						0.1											
甲西町	2.8					25.7	2.7	0.1	19.8	0.1			0.2	25.7	10.4		0.6					1.7	0.1										
八田村	7.8	0.9	1.1			13.1	15.1	0.3	0.3	7.3	0.1			24.5	14.4							0.1											
芦安村							28.9																										
中央市												33.2																					
玉穂町	3.3	0.7	0.3			1.9	0.3	0.3	0.1				12.8	36.7	25.8							0.1											
田富町	3.6		0.1			4.6	0.9	0.6	1.1				2.9	26.1	21.4		0.3					0.1											
豊富村																																	
昭和町	5.6	0.1				0.7	0.7	0.1					2.5	26.4	35.1		0.1																
市川三郷町																	17.9																
市川大門町	1.8					1.4	0.4		5.4				1.4	26.4	12.3		20.8	0.4	0.1	6.7	0.4												
六郷町	1.3					2.3	0.8		6.0				0.2	28.9	16.7		5.3	10.5		8.1	0.9		0.2			6.4							
三珠町	1.9					2.1	0.5		3.0				1.3	37.2	14.8		14.6	0.4	1.6	0.3													
増穂町	2.8					16.4	2.0		5.8				0.3	24.6	6.6		0.7			28.8	0.7												
諏沢町	1.3					10.1	1.8		4.9				0.2	23.3	10.8		2.4	1.1		23.8	6.5												
身延町																						20.3											
身延町	1.1					2.4	0.5		4.3				0.5	20.2	11.5		0.3	0.2		6.3	0.8		0.3	0.8	21.2	0.1	9.4		0.9	0.1			
下部町	0.3					4.7	0.7		6.0				0.5	26.3	8.0		5.7	4.5		7.9	0.5		1.6	1.8	8.1								
中富町	2.3					3.8	0.5		4.8				0.1	27.0	8.1		0.6	3.0	0.1	17.0	3.0		1.9		17.1	0.1							
早川町	2.0					5.6	2.4		6.9					24.1	13.0		1.3	0.2		9.9	1.6		4.7		11.8	0.5							
南都町																																	
南部町	0.1					0.9	0.6		0.5					3.1	1.0		0.1			0.5			2.0		0.3		11.5						
富沢町																																	

南部町においては静岡県での購買率が66%  
(昭和61年：南部町38%、富沢町54%)

### 地元購買の変遷



# 高速道路全線開通の影響

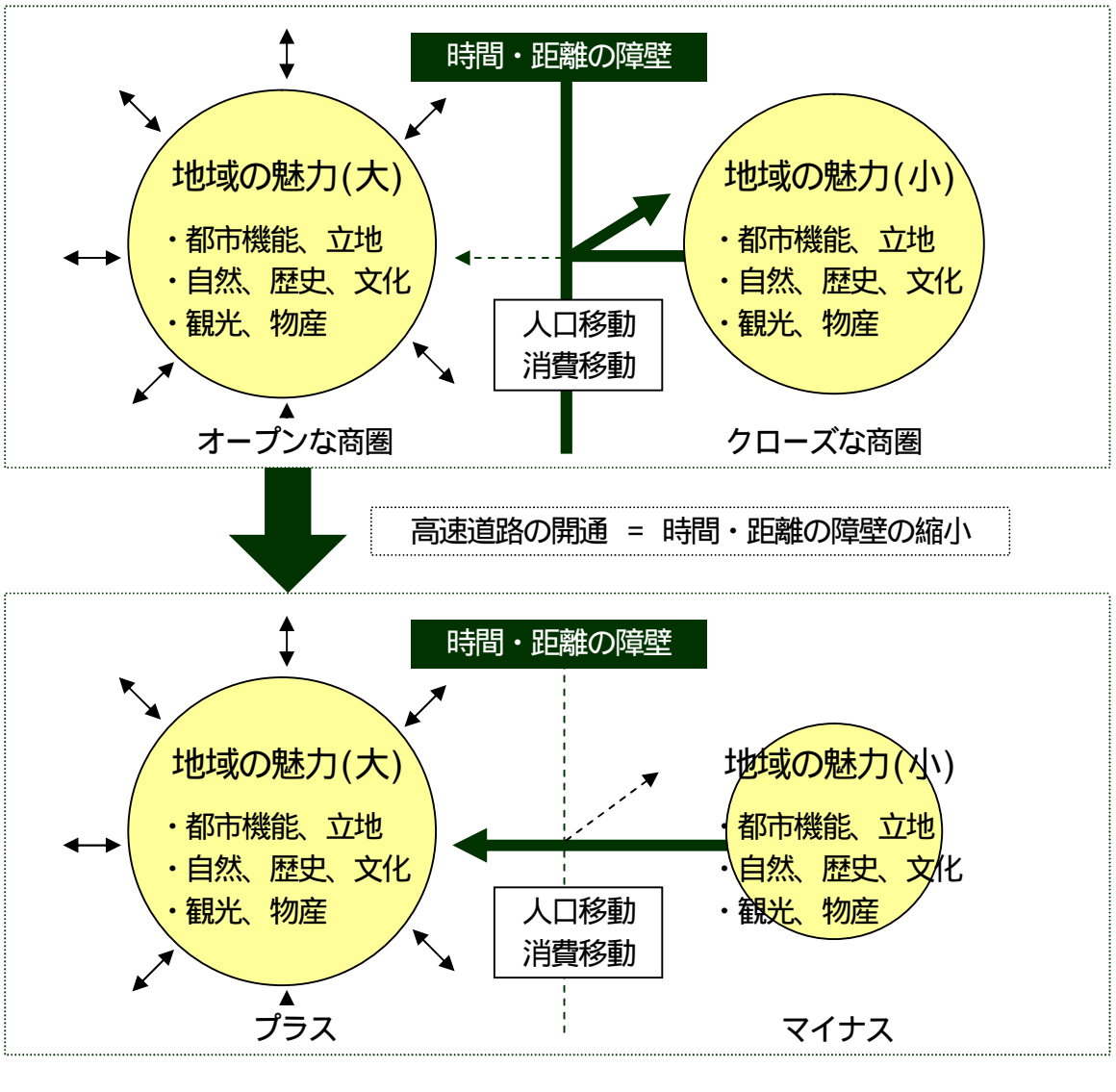
## 1 交流(観光)・定住に対する影響

### (1) 一般的な影響

高速道路の開通は、地域のこれまでのトレンド(人口増減等)を加速する。

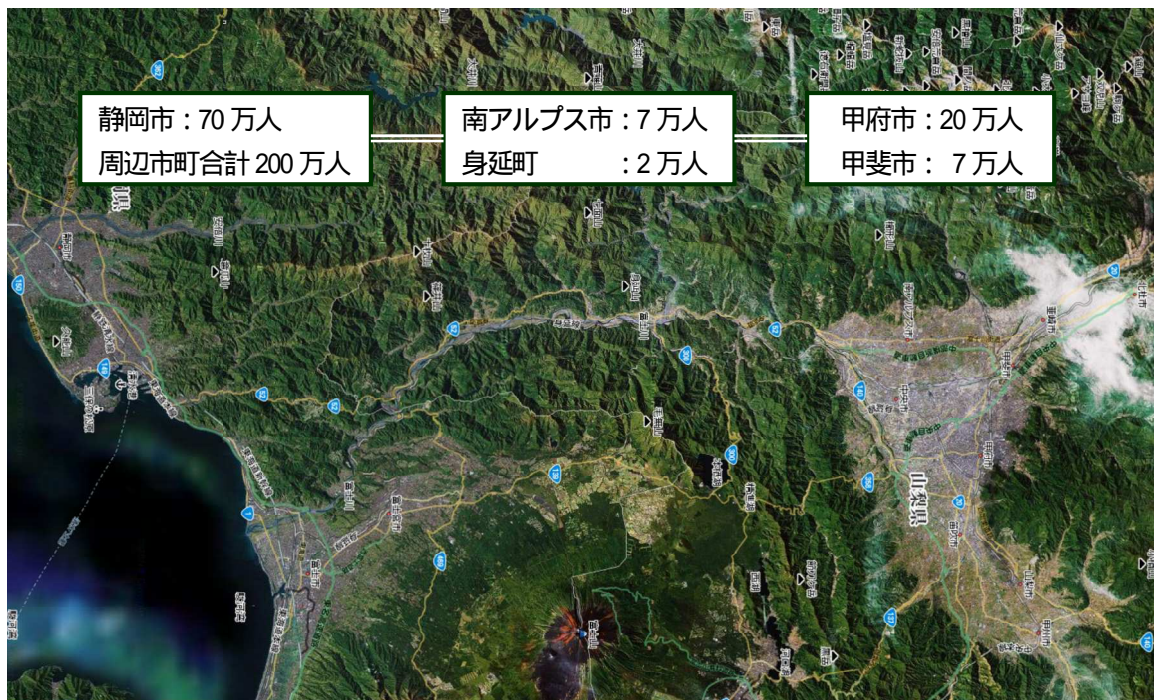
従来からオープンな商圈で競い合っている地域や企業にはプラス効果がある。

クローズな商圈で安定してきた地域や企業にはマイナス効果が考えられる。



## (2) 磐越道全線開通の影響調査

中部横断自動車道と立地環境が類似する磐越自動車道全線開通の影響を調査した。

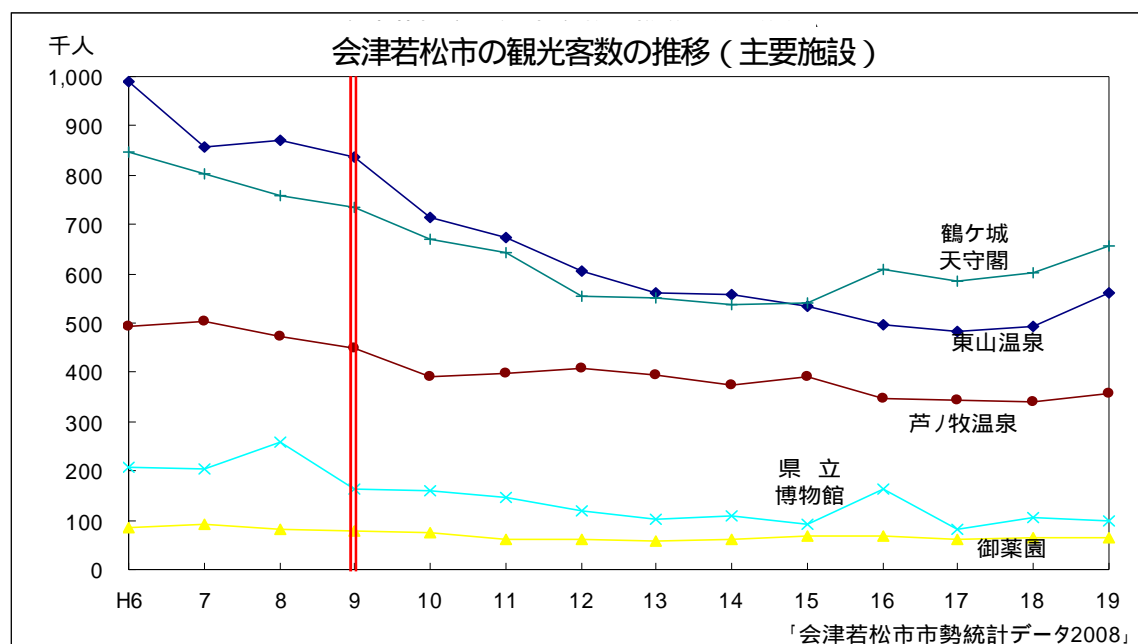
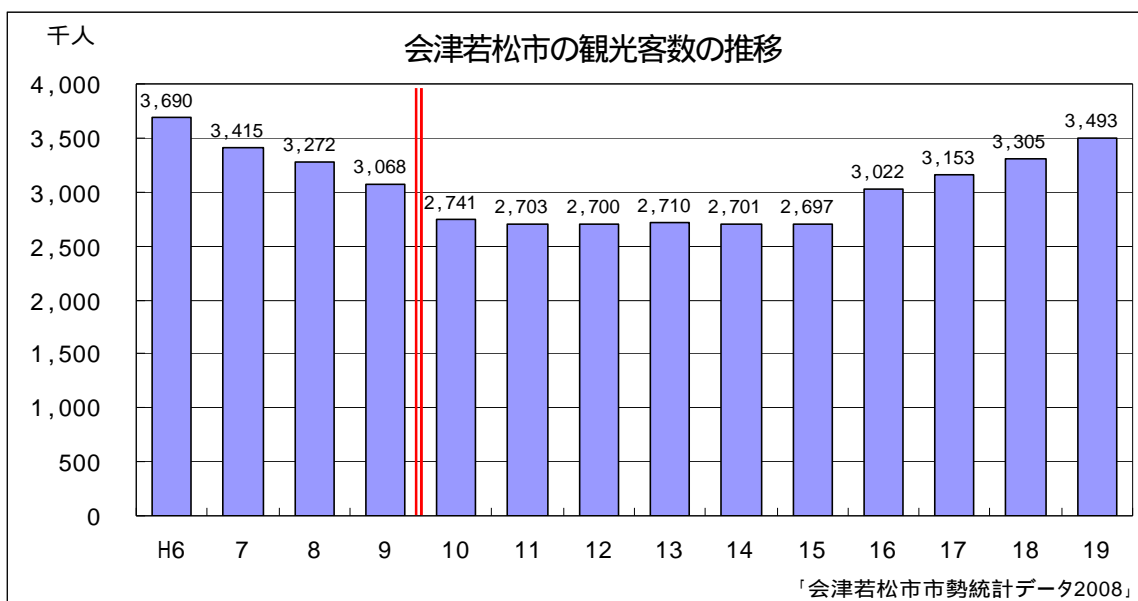


### 【観光客数】

平成9年の全線開通後、6年間にわたり観光客数は減少から横ばいを続けた。

平成16年からの増加は、観光キャンペーンによるものと推測されている。

温泉地の客数は戻らず、通過観光となっている。





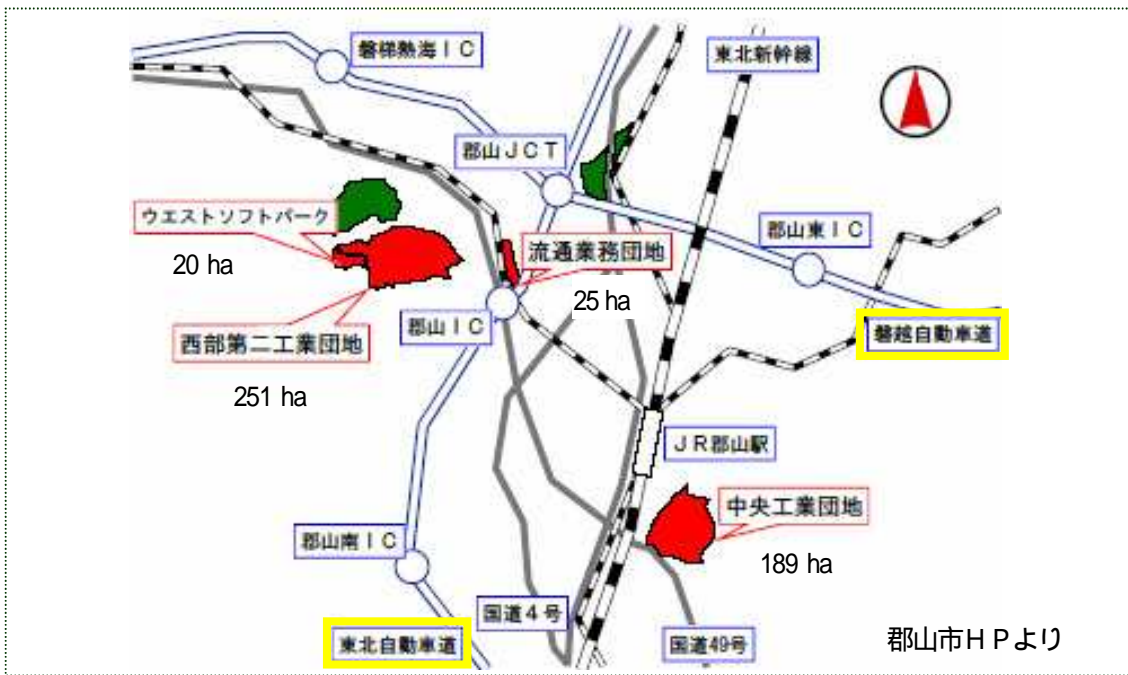
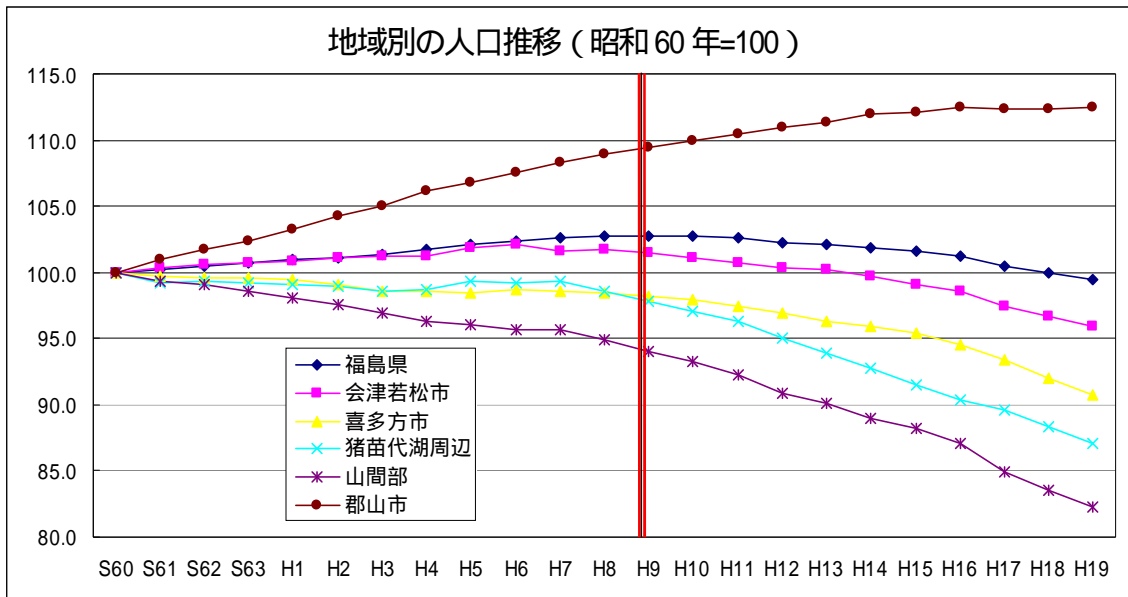
## 【人口】

平成 10 年をピークに福島県の人口は減少している。

喜多方市、猪苗代湖周辺の人口は全線開通を境に減少（明確な因果関係は不明）

特に山間部の人口減少は著しい。

一方、郡山市の人口は伸び続けている。

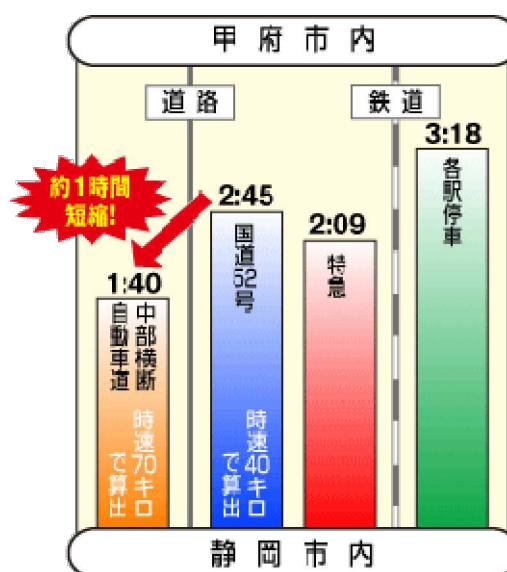


## 2 物流に対する影響

### (1) 中部横断自動車道が本県物流に与える効果

(関東地方整備局甲府河川国道事務所 HP より)

甲府市内から静岡駅までの所要時間が、1時間程度短縮される。  
 所要時間の短縮



荒天時の通行止め規制が回避される。 移動・輸送の確実性が向上



国道52号の雨による通行規制区間(直轄管理)

規制区間名	規制延長	規制基準値	規制回数	規制時間 (延べ)
	(km)	(mm・連続)		
古屋敷 (ふるやしき)	2.4	150	7回	142時間40分
相又 (あゐまた)	3.1	200	6回	82時間10分
切久保 (きりくぼ)	1.3	200	7回	69時間00分
万沢 (まんざわ)	4.8	200	5回	59時間10分
富士見峠 (ふじみとうげ)	4.9	200	5回	59時間00分
逢坂 (おうさか)	2.5	200	5回	45時間15分

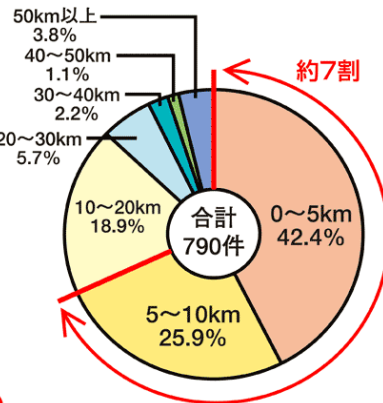
規制回数と規制時間は平成13年度から平成17年度までの実績

中部横断自動車道沿線の企業立地のポテンシャルが向上する。  
企業立地による貨物の増加

静岡県、山梨県、長野県の主要な工業団地位置図

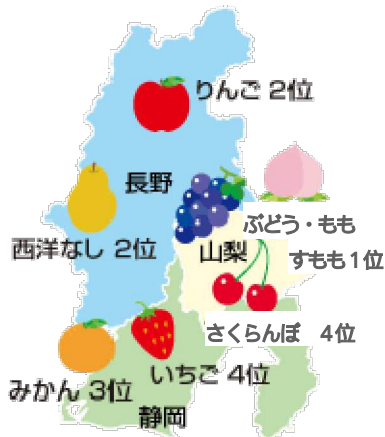


ICからの距離別新規工場立地件数 (平成14年全国値)



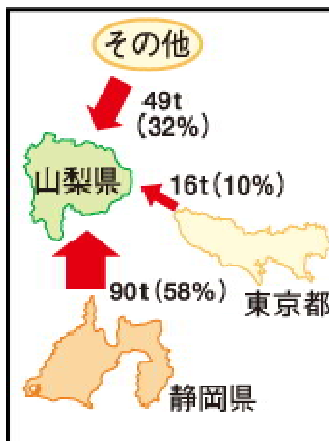
農産物や水産物等の生鮮品の供給範囲が拡大する。  
物流ニーズの促進による貨物の増加

果物の収穫量(全国順位)



資料:平成17年 農林水産省農林水産統計データ

さばの産地別入荷状況



資料:「平成14年 市場年報」甲府市中央卸売市場

中部横断自動車道の開通による水産物の供給範囲の拡大



これらのことから、中部横断自動車道の開通後においては、物流基盤が飛躍的に向上し、流通する貨物が増加するほか、さらに、企業立地の進展等により、発生貨物が増加することが予想される。

## (2) 本県の立地条件

東アジア物流の進展により、環太平洋～環日本海ラインの重要性が拡大

- 現在の日本の産業の中心は、東京圏や中京圏などが位置する太平洋側となっているが、今後経済のグローバル化の進展や、東アジア物流の進展を勘案すると、環太平洋と環日本海をつなぐラインの重要性が高まっていくことが考えられる。

東京圏～中京圏ライン、環太平洋～環日本海ラインのクロスポイントに優位性

- 本県は東京圏と中京圏の間に位置しており、中部横断自動車道開通後には、東京圏と中京圏を結ぶラインと、環太平洋と環日本海を結ぶラインのクロスポイントに位置することになる。
- 東京圏への補給基地としての物流を考えると、中部横断道沿線地域は東京圏との物流のみでは優位性は低いものの、東アジアとの物流を視野に入れた場合、高い優位性があると考えられる。



増穂ICから見た南アルプスIC方面